

令和3年6月30日

経済産業大臣
梶山 弘志 様

日本野鳥の会秋田県支部
支部長 佐々木 均 (公印省略)
秋田県横手市前郷一番町 1-21

日本雁を保護する会
会長 呉地 正行 (公印省略)
宮城県栗原市若柳川南南町 16

公益財団法人 日本野鳥の会
理事長 遠藤 孝一 (公印省略)
東京都品川区西五反田 3-9-23 丸和ビル

(仮称) 能代山本広域風力発電事業環境影響評価書に関する要望書

(仮称) 能代山本広域風力発電事業の環境影響評価書(以下、評価書という)の審査にあたり、当会らが貴省に対して令和3年3月1日に提出した「(仮称) 能代山本広域風力発電事業に係る環境影響評価準備書に対する経済産業大臣勧告に関する要望書」に続き、評価書においても下記のように事業者に対し厳しいご指導をいただけますようお願いいたします。

記

日本野鳥の会秋田県支部では、令和3年2月および3月に(仮称) 能代山本広域風力発電事業建設予定地において、春季滞在期から渡去期におけるガン・ハクチョウ類の実態調査を行いました。その結果、対象事業実施区域は滞在期・渡去期のガン・ハクチョウ類によって高頻度に利用されていることが再確認されました。特に66箇所ある事業エリアのうち荷八田エリアおよび比八田エリア周辺は全調査日を通してガン・ハクチョウ類の利用度が高い傾向が見られ、ガン・ハクチョウ類への大きな影響が出るのが強く懸念されました。私達3団体はこれまでも荷八田エリア・比八田エリアともに建設の取りやめを求めていましたが、この調査結果より改めて以下のことを要望いたします。

(1) 要望事項

建設予定地のうち比八田エリアと荷八田エリアでの風力発電施設(以下、風車という)の建設を見合わせるよう、貴省から事業者にご指導ください。

(2) 理由

1. ガン・ハクチョウについて

今年の調査では昨年同時期の調査結果に比べて、滞在期のガンの動きが多く見られました。滞在期には餌場を探して同じところを周回したり、広い範囲で往復飛行を繰り返すなど、通常のガン・ハクチョウ類の行動と比べるとかなり不規則、変則的な飛翔パターンを取っていることがわかりました。さらに、採餌地への離着陸も頻繁に行っていましたが、これらのような飛翔パターンがみられる場所での風車の存在はガン・ハクチョウ類にとつ

て大きな障壁となることが予測されます。

・比八田エリアについて

比八田エリアはガン・ハクチョウ類の渡りに対する影響が大きいことが環境大臣意見によって指摘されたために、事業者が風車の位置を移動することを決めた区域です。しかし、今年の調査では山越えをする渡りの群の多くが変更後の風車設置予定地（以下、変更案という）を通るのを確認しました。また、比八田エリアの北側・北西側にはガン・ハクチョウ類にとって好適な採餌地があるため、採餌地間の移動時にも変更案付近を頻繁に通ることを確認しました。事業者の変更案では、元の計画より風車間の間隔を狭くしたため、既存風車と合わせるとガン・ハクチョウ類の移動経路に対し大きな壁のように立ち上がり、鳥類の移動を大きく妨げる恐れがあります。

・荷八田エリアについて

荷八田エリアは環境省が重要里地里山に、また、（公財）日本野鳥の会が重要野鳥生息地（IBA）に指定している小友沼からの距離も近く、能代川の河岸段丘上の台地で標高が急に高くなる場所に設置する予定であることから、渡り時の障壁影響が最も懸念される区域です。今年の調査でも渡りとみられる長距離の飛翔の際に、荷八田エリア経由で北上する群を数多く観察しています。この時に問題となるのは、荷八田エリアを通る際に風車設置予定地を東西方向に横切る群れが多いことです。この傾向は昨年も見られ、風況等何らかの理由があってこのようなコースを取るものと推察されます。このため、風車の配列が南北方向に沿っていても、ガン・ハクチョウ類への障壁影響を緩和しているとは言えません。また、滞在期においても荷八田エリア自体が採餌地として高頻度に利用されていること、採餌地から別の採餌地へ移動する際に荷八田エリアを通る頻度が非常に高いこと、採餌地間の移動の際にはあらゆる方向に飛ぶことなどから、この区域に風車を建てることはガン・ハクチョウ類の採餌行動を大きく阻害することが予想されます。

2. オジロワシについて

ガン・ハクチョウ類の調査中に荷八田エリアにオジロワシ（環境省レッドリストの絶滅危惧 II 類）が確認されました。この付近はガン類の採餌地となっており、同時に、周りに点在する複数の池沼にカモ類が集まることから、それを狙うオジロワシにとっても重要な採餌地となっている可能性が高いと考えられます。オジロワシは稀少猛禽類のなかでもバードストライクの発生数の多い種であり、影響を慎重に考慮する必要があります。この点からも荷八田エリアでの風車の建設は好ましくありません。

3. 計画全体について

本建設予定地は、世界遺産白神山地とガン・ハクチョウ類の大規模なねぐらである小友沼の間に広がる台地上の耕作地であり、ガン、ハクチョウ類にとって、渡りのコース上にあるだけでなく、滞在期間における採餌地としてかけがえのない地域です。ここに風車が乱立すると、渡りの途中で影響を受ける確率が増加するだけでなく、迂回のために余分なエネルギーを使ったり、渡去前の採餌に影響が出て渡るのに十分な栄養が取れなくなるなどの影響が懸念されます。

寒帯地方で繁殖に成功した貴重なガン・ハクチョウ類が、冬季に日本に渡ったことにより数を減らすようなことがあれば、自然保護の観点からみても国際的に許されないことです。生態系に影響のある場所を建設予定地から除外するという、ゾーニングの本来の主旨からも本事業計画全体が見直されるべきであると考えますが、影響を最小限にするために最低でも荷八田・比八田エリアの建設は見合わせるべきと考えます。

経済産業大臣におかれましては、再生可能エネルギーの促進が地域の生態系や生物多様性を破壊することのないよう、事業者に対して大幅な計画変更を行うよう御指導くださいますようお願い申し上げます。

なお、調査の詳細は添付の報告書をご参照ください。報告書は野鳥の会秋田県支部 HP (<http://tanyoakita.la.cocacn.jp/2020-noshiro-new.html>) において公表しております。

以上